MDHCだより　NO．３６

三河歯科衛生専門学校　　H１９．５．２１

今年の学生募集

校　長　　竹　内　幹　彦

常日頃は、本校の教育方針を十分理解して、臨床実習施設として学生たちに心のこもる実習教育をしていただき、心より感謝申し上げます。

約15年前、この学校を設立するにあたり、種々の問題を抱え大変苦労いたしました。当時、愛知県歯科医師会の会長であった宮下先生のご助言・ご協力、また西三河八地区歯科医師会の先生方のご理解を得て、学校法人「愛知産業大学」のバックアップのもと、何とかこの学校を立ち上げることが出来ました。

創立当初2・3年は学生募集に苦労しました。その後学生数は順調に伸び、定員を確保する事が出来ましたが、残念ながら今年は60名定員のところ50名の学生しか集めることが出来ませんでした。この原因としては次のようなことが考えられます。

① やはり少子化問題であり、この2・3年が「18歳人口」の最も減少している時期であること。

② 学校教育の場にも市場原理が導入され、最近静岡県に2校、名古屋駅前に1校歯科衛生士学校が開校されたこと。また、愛知学院大学が2年制の歯科衛生専門学校を3年制の短大とし、定員を50名から100名に増員したこと。

③ 愛知県内の企業の景気が良く、高校卒の求人条件がよくなり伸びたこと。

本校も平成22年度までに、今までの2年制の専門学校からどんな形にしろ3年制の学校に移行しなければなりません。現在の状況を考えると非常に厳しいものがあると言わざるをえません。

私どもとしても将来の西三河の歯科保健医療を考えたとき、マンパワーの確保がますます重要になってくると思われますので、スムーズな3年制への移行を必死になり模索しているところであります。

「MDHCだより」の紙面をお借りして、今後先生方におかれましては、以前にも増して臨床実習・学生募集の面で更なるご理解・ご協力をお願い申し上げます。

臨床実習概要

＜４期に分けて実施＞　平成19年度の実習生は51名、実習期間は5月11日から12月7日までです。27の歯科医院・病院と9の諸施設のご協力のもと、4期に分けて実施します。

＜事前指導＞　臨床実習に向けて、以下の事前指導を実施しました。

【臨床補助実習】は、1年生の学年末に技術検定、グループワーク（術式・器具器材の確認）、業者実習（セメント練和、ＰＭＴＣ）などを行いました。

【実習直前指導】は、5月7日から5月10日まで行い、歯科診療補助（連合印象、バキュームテクニック等）の実技復習を実施しました。

学校行事から

１　入学式（11回生）

平成19年度入学式は、4月5日（木）10時から本校講堂で挙行されました。西三河地区歯科医師会長、愛知県歯科衛生士会長、学園本部からは後藤局長にご出席いただき、竹内校長が11回生50名の入学を許可しました。

歯科医師会を代表して、刈谷市歯科医師会会長の石川先生から、「歯科衛生士は人々の健康づくり・疾病の予防と関連の深いやりがいのある仕事である。2年間、お互い助け合って頑張ってほしい」と励ましのお言葉を頂きました。

２　戴帽式（10回生）

臨床実習を前にして、2年生の戴帽式は4月26日（木）14時から、歯科医師会、歯科衛生士会からのご来賓、学園理事長、多くの保護者のご出席のもと、厳粛な雰囲気の中で行われました。

来賓を代表して、安城市歯科医師会副会長の榊原先生から「臨床実習では患者さんを思いやる気持ちを忘れず、あせらず自分のペースで頑張ってほしい。」と、愛知県歯科衛生士会副会長の磯部先生から「臨床実習は“わからないことが何なのか”を知る場所である。謙虚に素直に感謝の気持ちを持ち臨んでほしい。」など心構えについてお話していただきました。

＜『戴帽式を終えて』学生感想文＞

～『ナースキャップを戴いたとき、1年間やってきたテストや実習などが思い出されました。辛い時もあったけれど、頑張って来られて嬉しいです。』

～『誓いのことばのように、社会に出てからさまざまな人に信頼され、頼りにされる衛生士を目指してこれからも頑張っていきたいです。』

第16回　歯科衛生士国家試験結果

(H19．3月実施・9回生受験)

全国では7,040名が受験し、合格率は93.8%でした。本校の卒業生56名は全員合格し、3年連続で100%合格となりました。これもひとえに指導者の方々のご指導のおかげです。ありがとうございました。